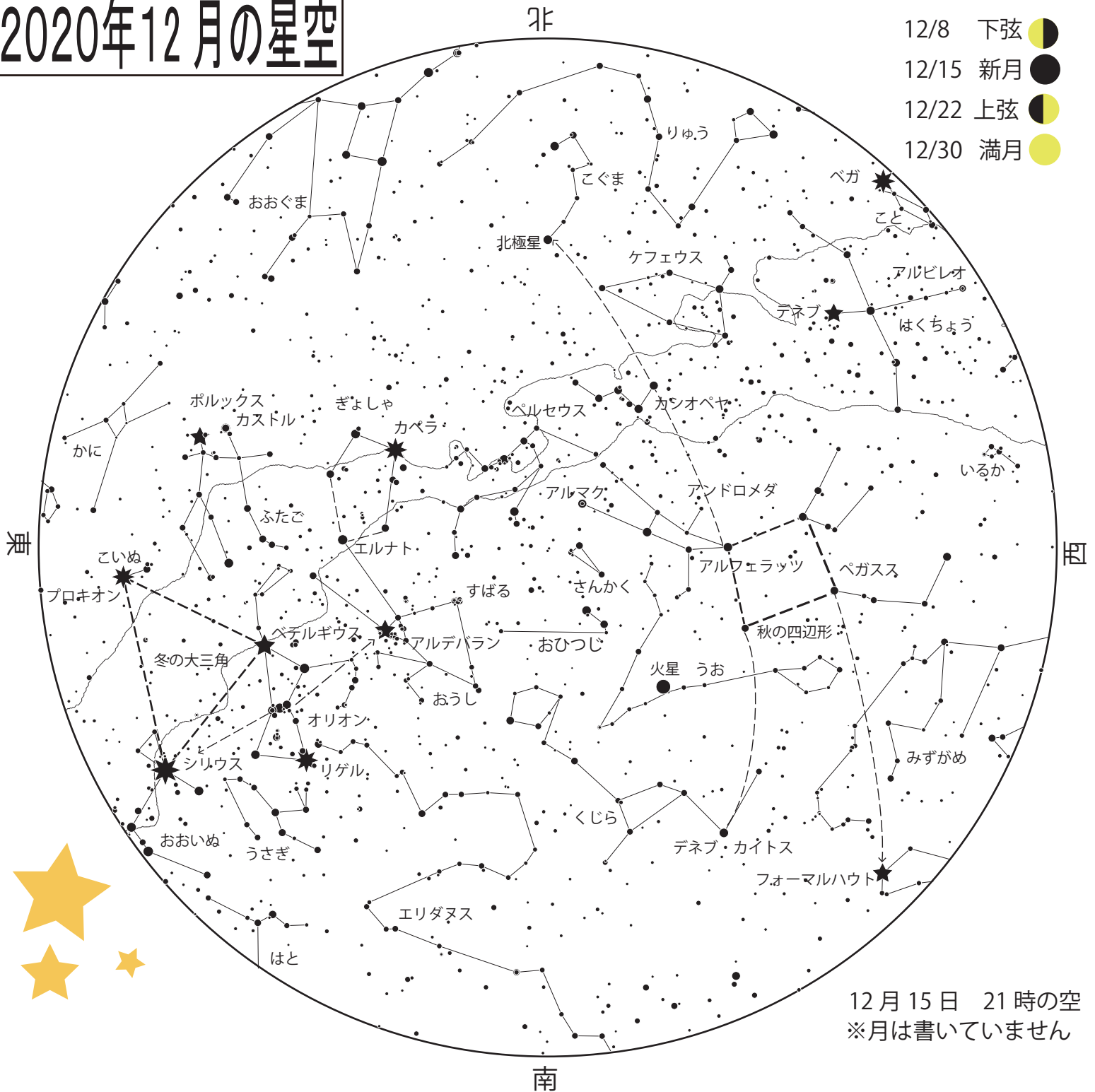


# 姫路で見る 2020年12月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。  
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 12/8 下弦 
- 12/15 新月 
- 12/22 上弦 
- 12/30 満月 



12月15日 21時の空  
※月は書いていません

南西の空に明るく輝くのは火星です。火星は12月中旬から1月中旬にかけてうお座を移動中です。西の空には、まだ秋の星たちが見えています。目印は秋の四辺形です。ここはペガサス座なのでペガサスの四辺形とも呼ばれます。この四辺形の東側の線を北に伸ばすとカシオペヤ座をかすめた先に北極星が見つかります。カシオペヤ座と北極星の間に見える五角形はケフェウス座です。秋の四辺形からは、アンドロメダ座を経てペルセウス座も見つかります。この四辺形の東側の線を今度は南に伸ばすと、くじら座の尾の星デネブ・カイトスが見つかります。一方、西側の線を南に伸ばして見つかる星は、秋の星座でたった1つの1等星みなみのうお座のフォーマルハウトです。

東の空には冬の星がそろいました。南東で結んだリボンのように見えるのがオリオン座です。2つの1等星ベテルギウスとリゲルが目立ちます。リボンの結び目の三つ星を東の方にのぼすと、全天でいちばん明るいおおいぬ座のシリウスが見え、こいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウスと合わせると、冬の大三角ができます。オリオンの三つ星を今度は西(右上)の方にのぼすとおうし座のアルデバランや星の集まり「すばる」が見つかります。おうし座の北側の五角形ぎよしゃ座にはカペラが目立ち、北東の空にはふたご座のカストル、ポルックスがなかよくなっています。